

# 思いきり楽しんだ、村山の夏



厚岸を活動の拠点として、現在の北方領土等の探検を行った最上徳内翁。その出生地が山形県村山市であったことから、村山市と厚岸町は平成3年に友好都市を提携し、以後、産業や文化等での交流が行われるようになりました。

その中の一つの取り組みとして、双方の子どもたちが、お互いの地域の風土や文化に触れ、野外活動交流を通じて友好都市の絆を深めるとともに、自分で問題を解決し、新しい状況を切り開く「生きる力」を育むため、平成12年から『友好都市子ども交流事業』が行われています。

この事業は、村山市と厚岸町を相互に訪問するもので、今年で20回目を数えました。この間、村山市からは247人が厚岸町を訪れ、厚岸町からは258人が村山市を訪問しています。

今年も、7月30日から8月2日の3泊4日の日程で、厚岸町の子どもたち15人が村山市を訪問し、さまざまな体験を行ったので、その内容を紹介します。

## 7月30日

出発の日、朝7時に役場を出発しバス、列車、飛行機を乗り継ぎ、約9時間かけて山形空港に到着。空港では、村山市の職員がプラカードを持って出迎えてくれました。市役所



この日の夜は、一日中外での活動で疲れ切ったのか、みんなぐっすりとお眠りにつきました。



に到着すると、ほぼ全ての市役所職員の皆さんが、子どもたちを笑顔と拍手で迎えてくれて、副市長より歓迎の挨拶をいただき、厚岸町の代表児童として、五十嵐さんが大きな声で元気よく挨拶をしました。

その後、宿泊施設である『やまばと』へ向かい、ここでは村山市の子どもたちが迎えてくれました。お互いの代表児童が挨拶を交わし、厚岸町の児童から手作りのお土産を渡しました。

夕食後は、名刺交換などを行う交流会があり、自由におしゃべりを楽しみました。

## 7月31日

エアコンがない『やまばと』。早朝からセミが鳴く中、ラジオ体操、手作りの朝食を食べて出発しました。

午前中はブルーベリーの摘み取り体験やスイカの収穫体験、そば打ち体験を楽しみました。そば打ち体験では、師匠に作り方を教わりながら、村山市の子どもたちと協力して作ったそばをおいしくいただきました。

お腹を満たした後は、川遊びへ。潜る子、泳ぐ子、飛び込む子、タライから落ちる子、滝の下で手を合わせる子、魚を探る子。楽しみ方は子ども数だけありました。

夕食後は、瓶のラムネを飲みながら、みんなで花火を楽しみました。



## 8月1日

この日の最初の活動は居合体験。全員帯を締め、模擬刀を腰に差し、師匠に教わりながら刀を振っていました。

その後、徳内神社を参拝し、昼食後は、最上徳内記念館で紅花染め体験とスイカ割りをしました。紅花染めでは、思い思いに白いハンカチをゴムで縛り、職員が染めをしてくれました。染めを待っている間は、記念館の縁側に座り、庭を見ながら冷えたスイカを頬張ったり、声を上げてスイカ割りを楽しみました。

染め終わったハンカチを受け取り、いよいよ村山の子どもたちとお別れの時。1人ずつ思い出を発表し、笑顔で記念撮影をしました。中には寂しそうな顔をしている子も。

その後、道の駅で家族や友人にお土産を買い、宿泊施設の『クアハウス基点』にあるプールで遊びました。

## 8月2日

厚岸町へ向けて出発の朝。疲れもピークでしたが、『クアハウス基点』の従業員さん、村山市の職員の皆さんにお礼の挨拶をし、厚岸町へ向け村山市を出発しました。

長旅を終え役場に到着し、家族の顔が見えると、ホッとしたのか安堵の声が上がっていました。



厚岸町から遠く離れた、村山市でできないことを体験した子どもたちは、一回りも二回りも成長して帰って来ました。

この4日間の交流で得た思い出が、子どもたちの大きな宝となり、交流の絆が一層強いものとなれば、大変うれしいことと思います。